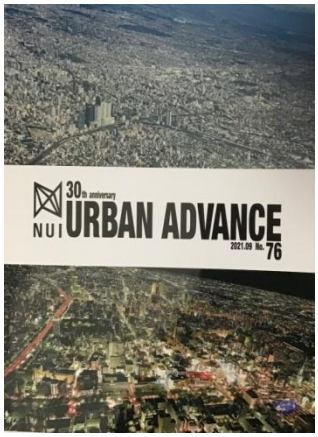
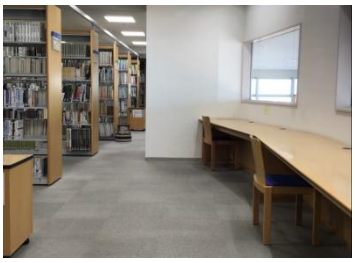
名古屋都市センターと『アーバン・アドバンス』

写真は名古屋都市センター『アーバン・アドバンス』76 号、2021 年 9 月の表紙である。名古屋都心部の写真に引き寄せられる。今号は名古屋都市センター設立 30 周年記念特集号。名古屋都市センターは、復興土地区画整理事業の収束を記念し、21 世紀の新しい名古屋のまちづくりに寄与する拠点として 1991 年 7 月に設立された。2010 年には名古屋都市整備公社(現「名古屋まちづくり公社」)との合併を経て、30 年間にわたり、「調査研究」「情報収集・提供」「人材育成・交流」の 3 つの事業を柱に、まちづくりの拠点として活動を続けてきた。



名古屋は「区画整理の街」といわれる。戦災復興土地区画整理事業により、名古屋都心部などの街並みが整備されてきた。それを記念して設立された名古屋都市センターは、まちづくりの調査研究・情報提供の拠点として重要な役割を果たしてきた。30 周年記念特集号では、特別寄稿や特集論文「コロナ禍の先を見据えた、名古屋のまちづくり」、座談会、まちづくり講演会、名古屋のまちの変遷、資料などが収録されている。

名古屋都市センターには設立当初からお世話になってきた。名古屋の都市計画やまちづくり関係資料、都市関連の雑誌などを利用してきた。名古屋都市センターは 1998 年に「金山南ビル」に移転して、まちづくり広場もオープンした。広場では常設展示コーナーが設置され、多くの企画・イベントが開催された。2020 年 3 月までの来場者数は約 124 万人という。写真のまちづくりライブラリーは、私の貴重な居場所であった。広々とした窓からは、御嶽山などの山々や街並みを見ることができる。



名古屋都市センターは多くの資料を刊行しているが、とくに講義で紹介したのが『景観が語る名古屋』1999 年「都市名古屋の一世紀」である。その一節を紹介する。慶長の城下町建設から明治維新、そして戦災復興を経た都市名古屋の足跡は、都市計画と実践の歴史であったが、同時にそれは、古いものを壊し、新しいものを建設するという開発の論理によって押し進められて来たことを意味している。古い建造物を手掛かりに定点観測を試みたこの写真集の制作過程で気付いたことは、新しさと引き換えに私たちは界隈への愛着や記憶の拠り所を失おうとしている現実だった。成熟した都市には、時間や記憶が可視化されたモニュメントがもっと欲しいというのが率直な印象である。

(2022 年 11 月 27 日)